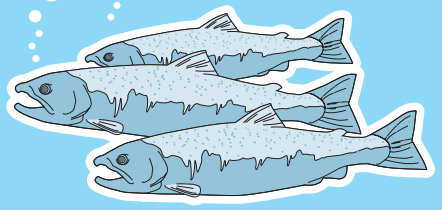
ビワマス通信 vol.3

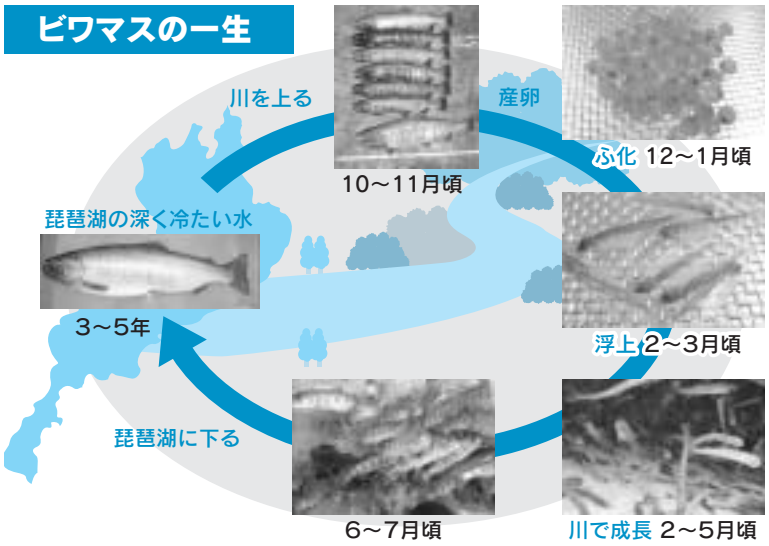


生物多様性の保全を進めるモデル事業

天野川に琵琶湖固有種のビワマスが遡上できる環境をつくってまちづくりを進めようと、市では県や関係機関とともに「天野川ビワマス遡上プロジェクト会議」を設置しています。

天野川ビワマス遡上プロジェクト会議
事務局
経済環境部 環境保全課(伊吹庁舎)
☎58−2230
FAX58−1630

ビワマスの一生



写真提供：滋賀県水産試験場

ビワマス通信3回目は、ビワマスの生態についてご紹介します。

サケ科の琵琶湖固有種であるビワマスは、10月から11月にかけて琵琶湖へ流れる川を上って、産卵します。

卵は川でふ化し、2月から3月頃に浮上。その後、昆虫などを食べながら成長して体長10cm程度になり、梅雨の時期に川が増水したタイミングに琵琶湖へ下りていきます。

その後、水温の低い北湖でコアユやエビを食べてさらに成長し、3年〜5年で成魚となります。大きいものは60cmを超えるものもいます。

そして、秋の産卵時期になると、また生まれた川に戻って産卵し、一生を終えます。

ビワマス豆知識①

ビワマスが産卵のために川に戻る際、大雨の日に群れをなして河川を遡上（そじょう）することから、別名「アメノウオ」とも呼ばれています。

ビワマス豆知識②

ビワマスの身は、きれいな紅色をしています。これは、餌として食べているエビ（甲殻類）に含まれている赤い色素が影響しているためといわれています。

ビワマスの旅立ちをみんなで見届けませんか
ビワマス放流イベント開催

前回のビワマス通信でもお知らせしたように、昨年11月から市の職員が、自宅の冷蔵庫を利用して天然ビワマスのふ化実験に取り組んでいます。約340匹のふ化に成功し、稚魚たちは元気に泳ぎ回り、日に日に成長しています。

そこで、この実験で成長した稚魚を、下記のとおり河川へ放流します。今回の放流は、滋賀県漁業協同組合連合会や醒井養鱒場と共同で行うので、職員が育てたビワマスのほかに、養鱒場で育てられた天然ビワマスも一緒に放流します。

自分で放流したビワマスが、大きく成長して再び帰ってくる。何だかロマンを感じませんか。どなたでも参加できますので、ご家族、親子でぜひお越しください！

●日　時
3月25日(日) 9時〜

●集　合
上丹生いぼとり地蔵前
できるだけ公共交通機関をご利用ください。

●放流場所
天野川支川　丹生川および総谷川合流点付近

●その他
事前申し込みは不要で、どなたでもご参加いただけます。

「ビワマスバーガー」試食もできる!!

米原市商工会が実施した「びわマスグルメグランプリ」で優勝したビワマスバーガーの試食会も同時に行います。この機会にぜひご賞味ください。

※数に限りがあります。あらかじめご了承ください。